

令和元 3 年 4 月 30 日

子育て女性にきく、女性活躍やジェンダーギャップ

アンケート調査結果

世界経済フォーラム（WEF）が国別に男女格差を数値化した「ジェンダーギャップ指数 2021」（政治・経済・教育・健康の 4 分野）が発表され、日本は調査対象となった世界 156 カ国の 120 位となりました。主要 7 カ国（G7）では引き続き最下位で、特に衆院議員の女性割合が低いことなど、政治参画における男女差が順位に影響しています。そこで子育て女性支援イベントやメディアを運営する（株）ルバートでは、子育て中の女性を中心に、実際は女性活躍やジェンダーギャップをどのように感じているか調査を実施しました。

まず、女性活躍やジェンダー格差の是正が進んでいるか？の実感は「非常にそう思う」は 3.9%と低く、「まあそう思う」と回答した人とあわせても「あまり思わない」「全く思わない」という人が 53.2%と半数以上は実感を持っていないようです。

また、80.6%の人が男女の格差を感じることがある、と回答。特に「職場の決裁者に女性がいない、話を進めるのに女性であることで不利な扱いを感じた」というものから、「家事育児は女性がするものという価値観が根強い、女性ばかり変化や負担を求められていると感じている」といった趣旨の意見は多数ありました。「基本のジェンダー教育を見直してほしい」「格差や不平等に気づいていない人も多く何十年も変わっていない」といったコメントもあり、職場や家庭・周辺の環境によりジェンダー格差や差別を感じる強弱に差はあるものの、多くの子育て女性はジェンダーギャップを感じている結果となりました。

より幸せな子育て社会に求めるものとしては、1 位「柔軟な働き方の浸透（リモートや時短勤務など）」、2 位「男性の育休取得や家庭参加」、3 位「保育園・保育サービスの整備／待機児童解消」でした。

生物学的な性差は否定できないにしても、まずは社会としてジェンダー格差があると感じている人が多数いる実態に理解を深め、誰もが取り残されない、ジェンダーバランスのとれた社会づくりに向けてできることを考えるきっかけとなれば幸いです。

《回答期間》 令和 3 年 4 月 3 日～4 月 30 日 《有効回答数》 103 人

一方、妻は子育てと家事をメインで、仕事をするのは、子育てや家事をしながら。という思い込み？風潮？が自分にも、周囲にも根強くあるなと思います。」

「独身の内はあまり差を感じませんでした。また若い内はキャリアも経験もなかったので、ジェンダーギャップがあってもそういうものだと理解していました。

結婚、出産、産育休、(介護はまだ)とライフスタイルが変化していく過程で、よく考えてみると変化を求められてるのはほとんど女性ではないかと感じました。男性も考え方や協力体制など、親の世代とは変わってきていますが、社会の仕組み上、まだまだ平等には遠いと感じます。」

「出産・育児・介護など家庭の事情を女性が担うことがまだまだ多い。男性や企業内での理解が得られ、男性も気持ちよく積極的に家庭内のサポートができるのは、以前より増えてきているとは思いますがまだ一部のように感じる。」

「政治分野では、女性の議員が少ないことをはじめ、裁判官等公的な分野で女性の数が少なすぎる。経済分野では、男女の賃金格差があり、しかも女性はパートタイマー等非正規の仕事に多く就いており、専門職についている女性が少ない。教育分野では、大学入試に男女差別があり、東大がいいとは言えませんが、東大の入学者における女性の比率はやっと20%を超えたところ。

男女の性別役割分担意識が社会に根強く残っており、家事・育児はやはり女性中心で、子どもを育てることが労働の分野ではマイナス要因になっている。」

「基本の教育もまだまだ男尊女卑。

政治などまだまだ古い男性思考で、未来への展望が見えない。妊娠、出産、育児、全て女性の責任で、対等にそれぞれができることをする、尊重する社会になってない。」

「女性は結婚・妊娠・出産したら社会復帰が難しいのに、男性はない。世の中の男性はまだまだ女性を見下してる。」

「共働きでも家事育児は女性がするものという考え方の人が多い。

子供のお迎えや急な早退に対応するのも女性で、男性が育休を取ろうとすると拒む職場もあるため。女性は結婚や出産でキャリアを泣く泣く諦めないと行けない場合が多い。」

「会社を経営しているが、銀行担当者の対応が私一人だとおざなりだったため、知人の男性を連れていったところ、反応が全く変わった経験がある。」

「男性は働きに出ていて 女性も働きに出ていて 家事は女性がしてと言うのがこびりついている

男性ももっと家事をしてほしい。固定概念が強すぎる」

「会議で女性向けの商品などの企画をしていますが、打ち合わせ10人中女性が私一人などといった場面によく出くわすため。女性のための商品なのに男性が考えてもしょうがないと私はいつも思っています。また、子供がいると出世の対象から外される（残業や子供の病気で休む可能性があるため）ことなど憤りを感じます。」

など多数

設問4. より幸せな子育て環境にするためには、何が1番必要だと感じますか？「上位3つまで」選択してください。



設問5. 上記で「その他」と回答した方、補足コメントのある方は詳細をお書きください。

「出産・育児にかかる費用が海外事例のように下がれば、少子化問題は改善すると思う。保育園や保育サービスは拡充してきたものの、働きやすさや企業・社会での理解などが向上しなければ、女性が働きながら子育てするのは様々な苦悩を伴うと感じる。

お金が必要でなければ、夫婦ともに潔く時短勤務も選べるし、その後のキャリア形成に影響しなければ、いつか子育てに集中したいと望む人もいるはず。」

「一人だけの負担でなく、母親父親、祖父母、保育園、近所みんなで支えられるような環境が必要だと感じます。」

「安心して子育てができる社会＝日本全体の意識改革になってくると思います。できる人ができる事をし、協力、サポートしあえる社会に。」

地域格差もありますが、短期的な改革も必要。

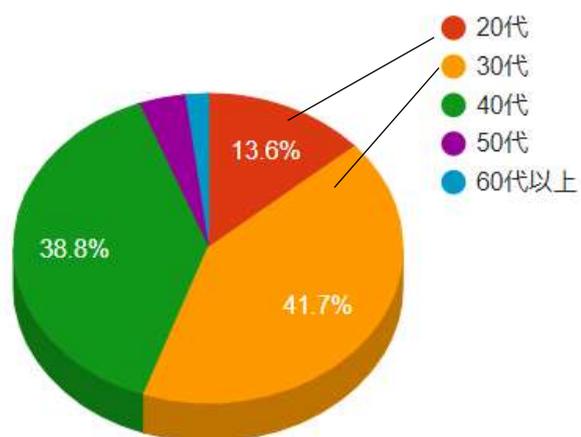
長期的改革はどこを目標にするのか明確に、国民全体で共通の方向性を作るべき。」

「保育園の整備は必要だが、幼稚園みたいに自分の入らせたい園に入れたい。」

「幼稚園と保育園、働き方によって子どもの環境が2系統に分かれている意味がわからない」

「今の政界、官僚の大々的なメンバーチェンジ、政策決定に際して現場の声を聞くだけでなく、意思決定のメンバーに現場の人を加えてほしい」

6. ご自身の年代を選択してください



7. お子さんがいる方は年齢を選択してください。(複数可)



事務局：株式会社ルバート

〒273-0012 千葉県船橋市浜町 2-1-1

ららぽーと三井ビルディング7階

問合せ：TEL/FAX：047-409-0244/047-409-0702 または
ホームページのお問い合わせフォームよりお願いします